

## 現 状 編

---



# 1. 半田市の地域概況の整理

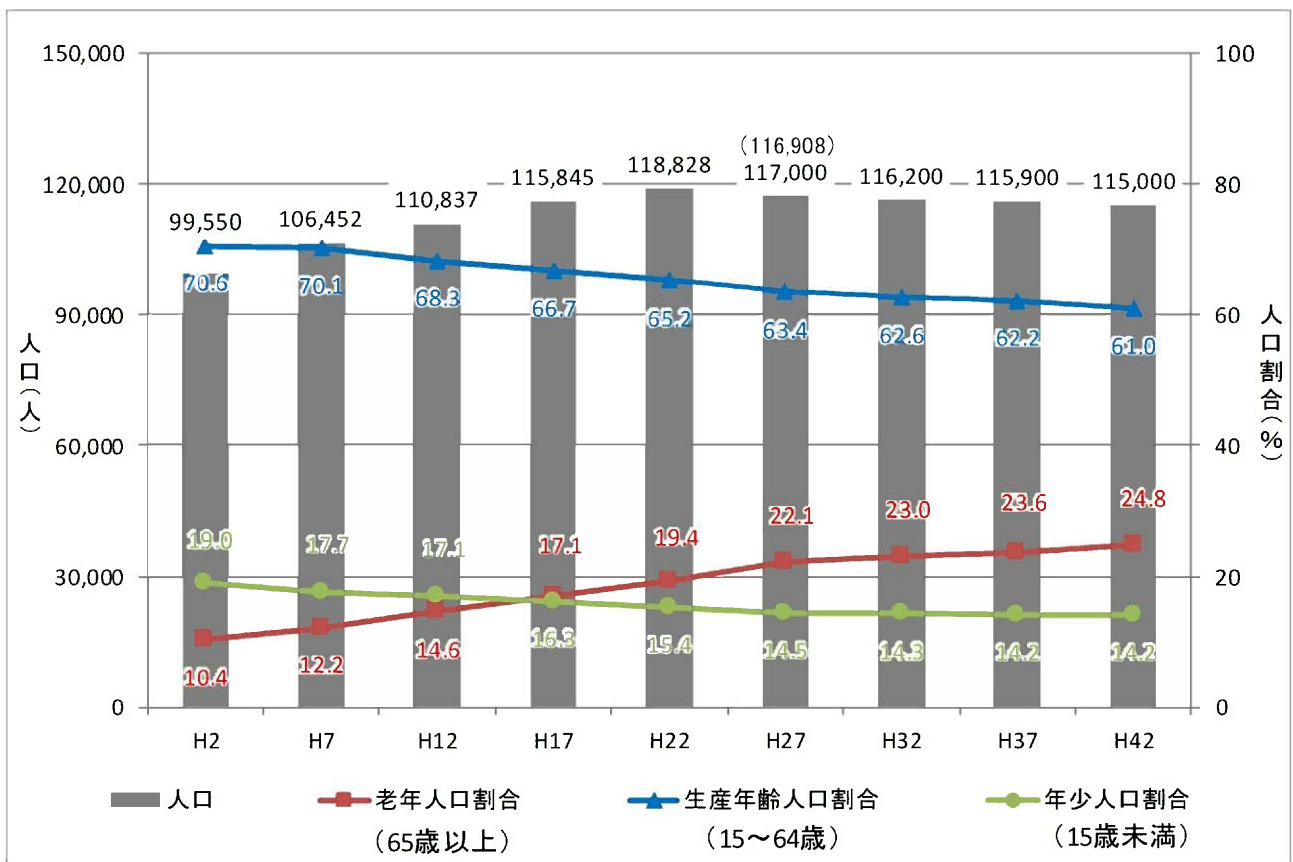
## (1) 半田市の概況

### 1) 人口動態

#### ①人口推移

半田市の人口は、平成22年をピークに減少に転じ、平成27年国勢調査では116,908人、半田市人口ビジョンによる平成32年の推計値は116,200人、平成42年の推計値は115,000人となっています。また、年齢3区分別の人口割合では、老年人口割合のみ増加が予測されています。

図 人口推移



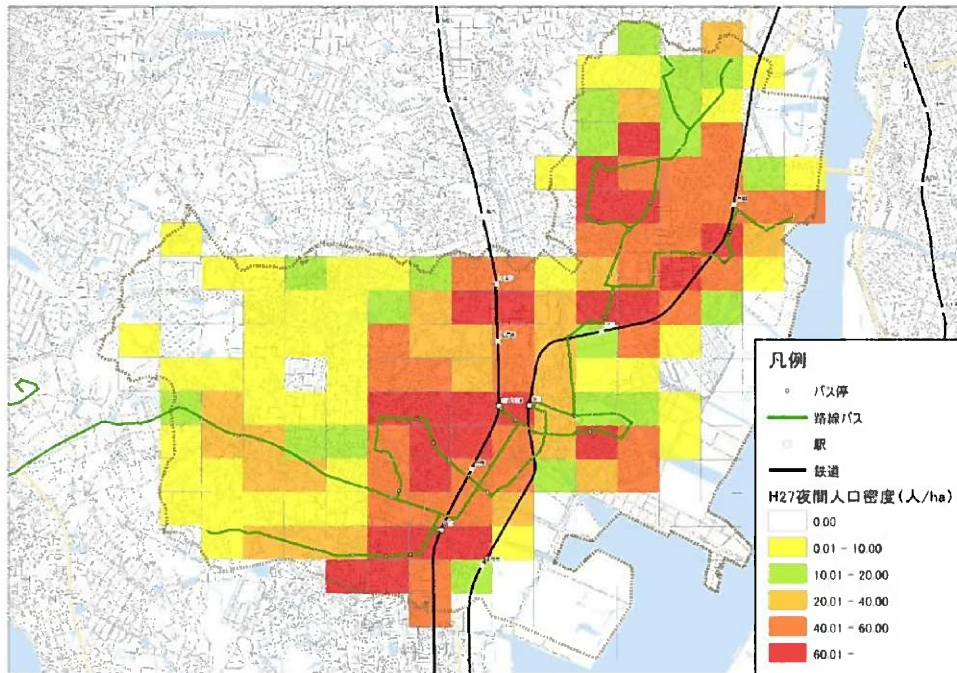
資料：半田市人口ビジョン、H27 国勢調査

## ②人口分布

平成27年の夜間人口密度の分布状況は、亀崎駅、知多半田駅、半田駅及び青山駅等の鉄道駅周辺及びバス路線沿線で人口密度が高い地域が存在しています。

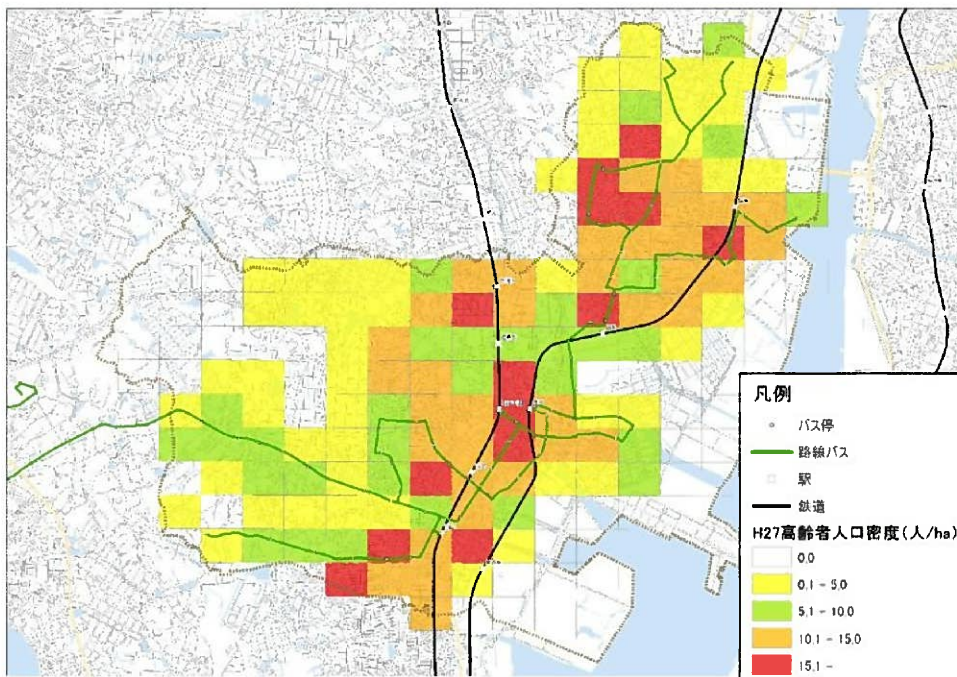
また、高齢者人口密度は、知多半田駅と半田駅の間、東成岩駅西側及び長根住宅周辺等で高齢者人口密度が高い地域が存在しています。

図 人口分布（平成 27 年）  
【夜間人口密度】



資料：平成 27 年国勢調査

【高齢者人口密度】

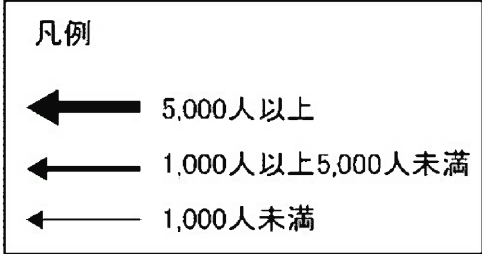
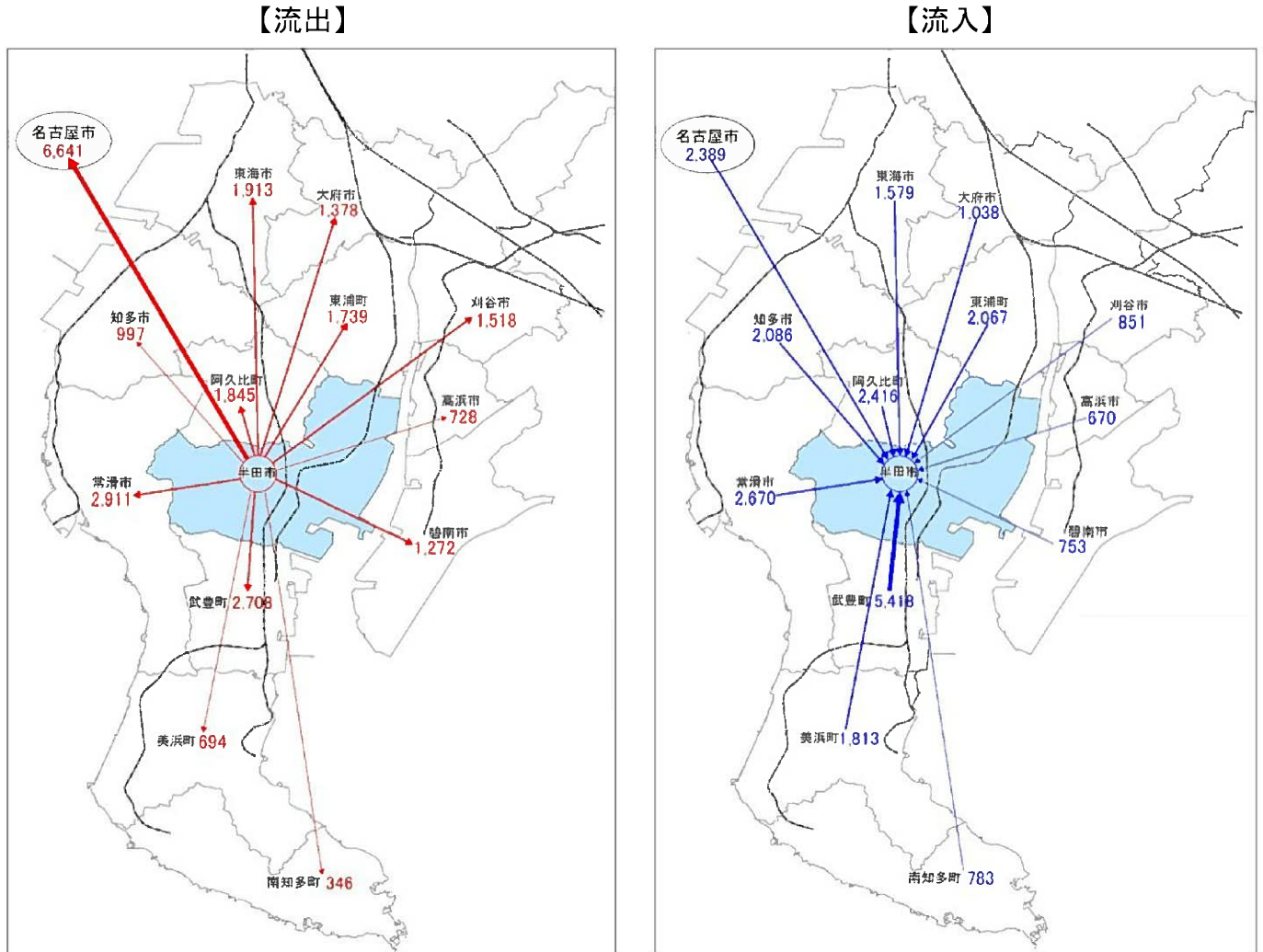


資料：平成 27 年国勢調査

### ③通勤通学人口流動

平成27年国勢調査における通勤通学流動を見ると、流出・入とも名古屋市との結びつきが最も高く、次いで、流出では常滑市、武豊町の順、流入では、武豊町、常滑市の順に多い状況にあります。

図 通勤通学人口流動



資料：平成27年国勢調査

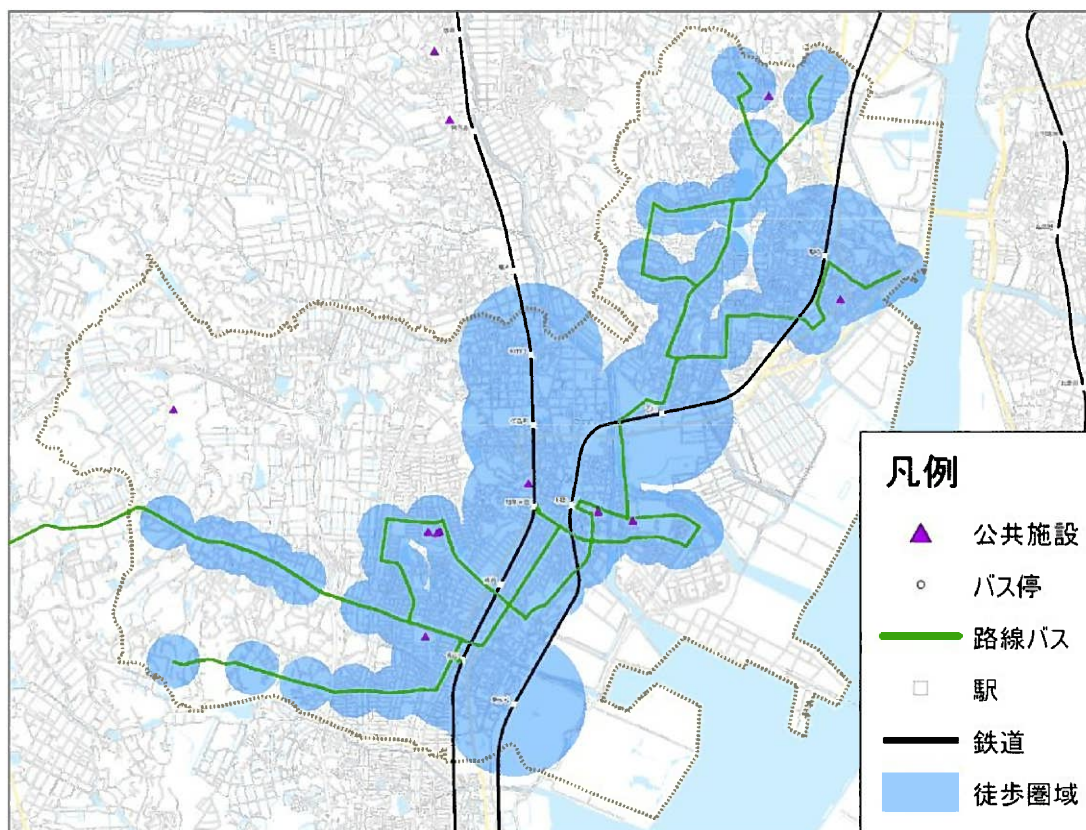


## 2) 施設概況

### ①主要集客施設の立地状況

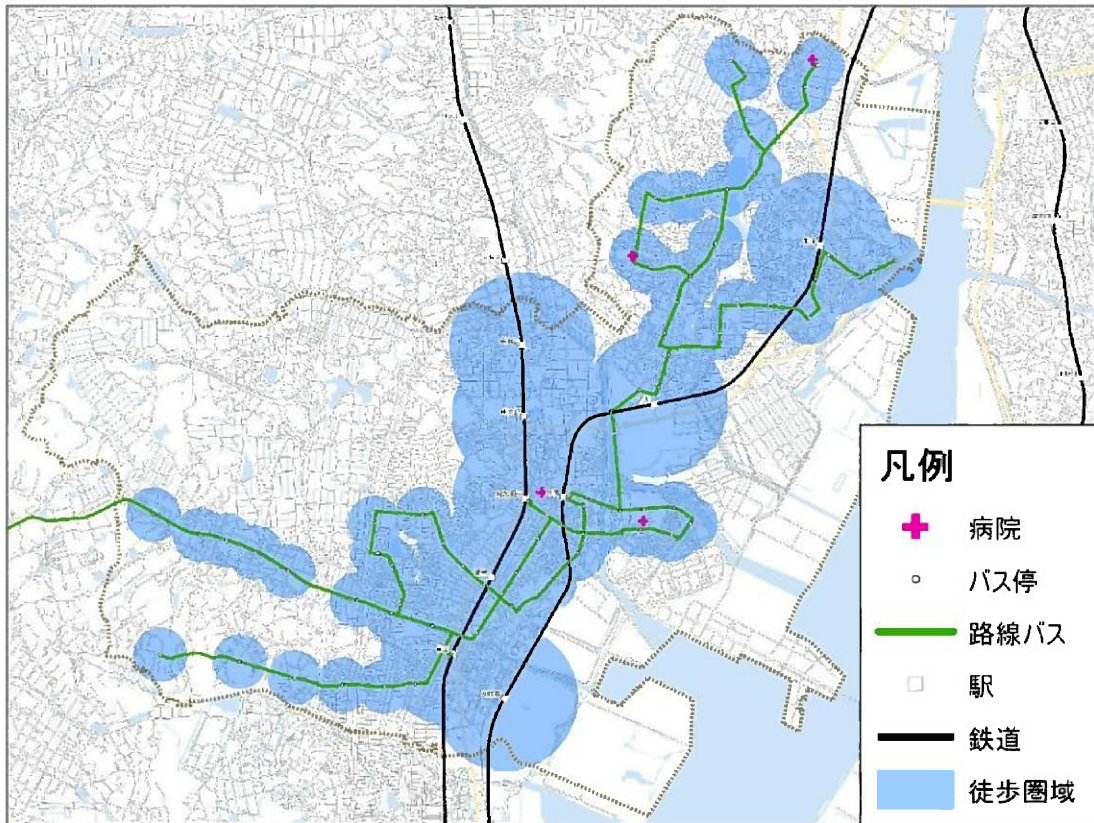
市役所、図書館、学校、病院、大規模商業施設（店舗面積が1,000㎡以上）などの主要集客施設の多くは、鉄道駅やバス停周辺に立地するものの、徒歩圏域（駅から800mまたはバス停から300m）から外れる施設（半田運動公園や県道467号沿いの大規模商業施設等）も存在します。また、観光施設についても、新美南吉記念館やごんぎつねの湯等の公共交通での利用が困難な施設が存在します。

図 公共施設の立地状況



資料：国土交通省「国土数値情報」

図 病院の立地状況



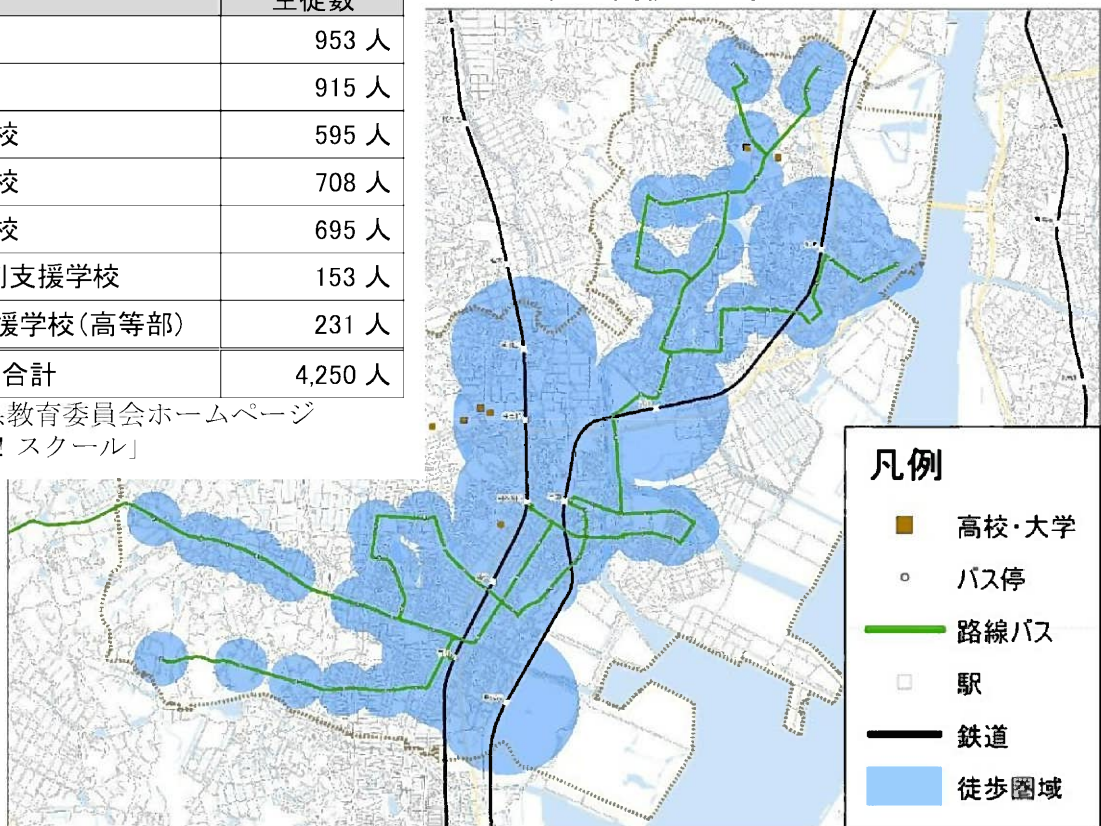
資料：国土交通省「国土数値情報」

表 市内に立地する高等学校等の生徒数

学校名	平成 29 年度 生徒数
半田高校	953 人
半田東高校	915 人
半田農業高校	595 人
半田工業高校	708 人
半田商業高校	695 人
ひいらぎ特別支援学校	153 人
半田特別支援学校(高等部)	231 人
合計	4,250 人

資料：愛知県教育委員会ホームページ  
「探そマイ！スクール」

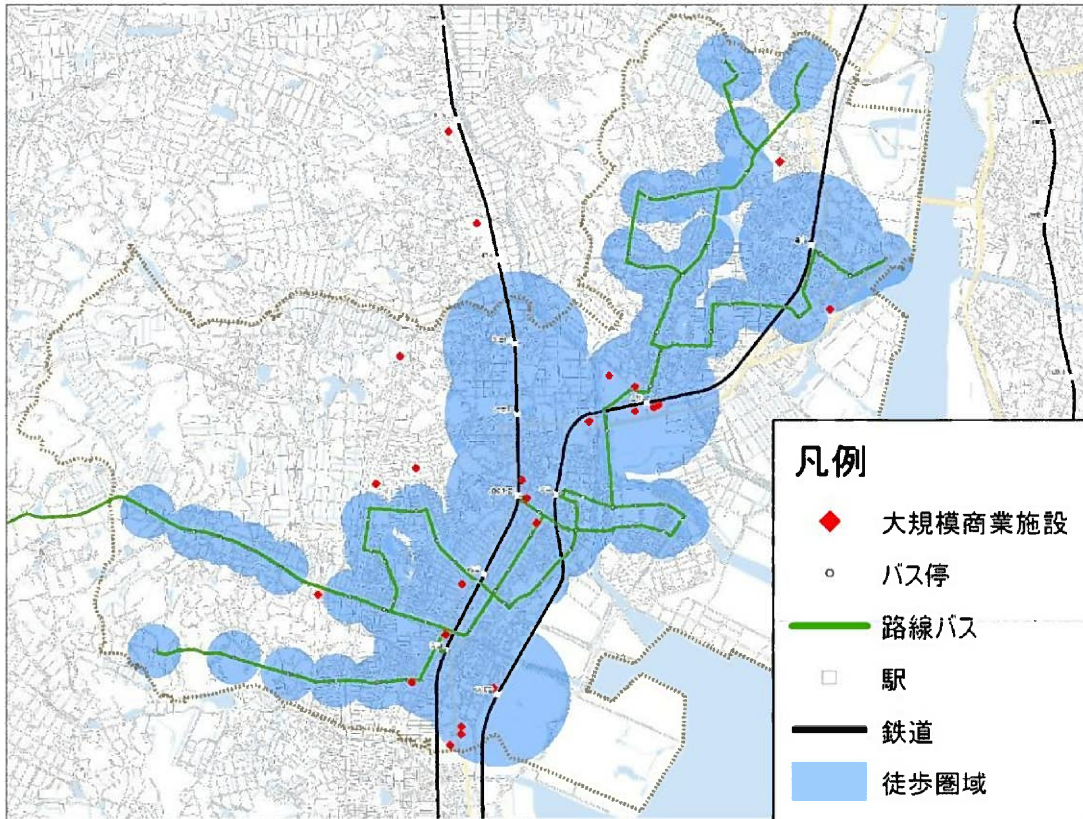
図 高校・大学の立地状況



資料：国土交通省「国土数値情報」

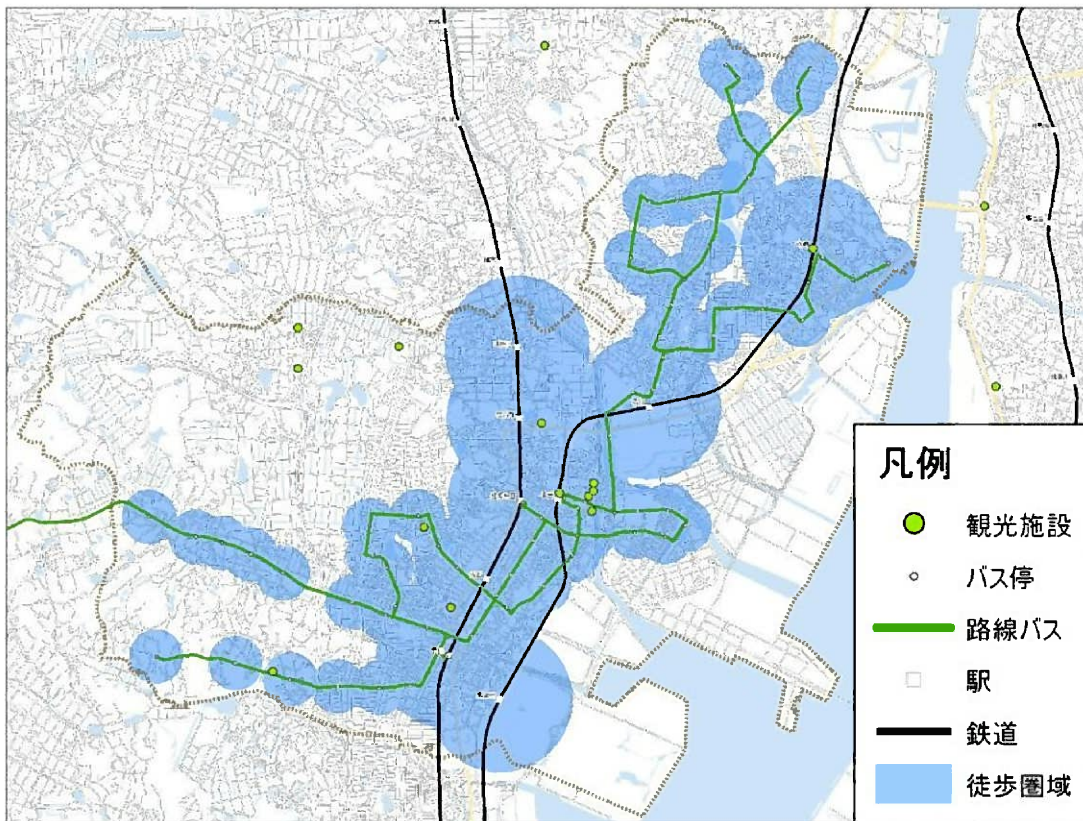


図 大規模商業施設の立地状況



資料：(株) 東洋経済新報社「大型小売店データ 2015 年度版」

図 観光施設の立地状況



資料：国土交通省「国土数値情報」



## ②観光資源（観光施設・イベント）の現状

市内観光資源入込客数の推移を見ると、年度により集計数は異なるものの、観光資源入込客数は増加傾向にあり、平成 28 年度現在約 154 万人の利用があります。

年間 10 万人の利用を超える観光資源（施設・イベント）は、春の山車祭り（市内 10 地区計）約 19 万人、魚太郎（飲食・カフェ）が約 14 万人、彼岸花イベント（童話の村秋祭り）及び博物館（酔の里）がともに約 11 万人、ごんぎつねの湯が約 10 万人となっています。

表 観光資源別入込客数の推移

観光資源 (観光施設・イベント)	内容	観光客数(年度)						
		平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
主要観光施設	國盛 酒の文化館	51,565 人	52,836 人	44,594 人	43,606 人	45,129 人	54,107 人	53,044 人
	博物館「酔の里」	97,129 人	103,160 人	102,652 人	59,386 人	-	40,726 人	106,158 人
	半田市立博物館	92,732 人	92,273 人	96,211 人	97,766 人	96,647 人	87,520 人	90,400 人
	新美南吉記念館	54,022 人	50,442 人	73,755 人	108,704 人	57,327 人	55,381 人	59,611 人
	半六庭園	-	-	-	-	-	21,386 人	59,966 人
	魚太郎(飲食・カフェ)	125,124 人	109,057 人	129,449 人	126,823 人	128,997 人	145,817 人	144,424 人
	ごんぎつねの湯	102,650 人	100,459 人	101,264 人	103,161 人	113,856 人	110,971 人	104,242 人
蔵のまちイベント	端午の節句など	35,239 人	12,988 人	26,377 人	26,671 人	27,495 人	26,092 人	32,781 人
紺屋海道イベント	ゆかたde紺屋海道	1,200 人	-	300 人	500 人	-	-	-
彼岸花イベント	童話の村 秋まつり	132,500 人	134,500 人	142,000 人	152,000 人	139,000 人	146,000 人	111,000 人
南吉関連イベント	南吉ネットワーク等	-	-	-	20,950 人	4,668 人	6,636 人	5,910 人
はんだふれあい 産業まつり	JFEスチール、 半田運動公園	40,000 人	43,000 人	16,000 人	39,000 人	40,000 人	40,000 人	42,000 人
赤レンガ公開	特別公開、一般公開	18,700 人	27,800 人	22,650 人	41,500 人	-	900 人	1,000 人
春の山車祭り	市内 10 地区	159,800 人	160,500 人	177,000 人	189,000 人	188,000 人	175,000 人	189,800 人
イルミネーション	中心市街地商店街 イルミネーション点灯式	1,250 人	1,000 人	1,000 人	1,100 人	1,180 人	900 人	1,000 人
いちご狩り	市野園芸、澤田農園	74,877 人	79,493 人	87,178 人	85,978 人	92,177 人	88,373 人	65,534 人
計		986,788 人	967,508 人	1,020,430 人	1,096,145 人	934,476 人	1,318,801 人	1,540,410 人

資料：半田市資料

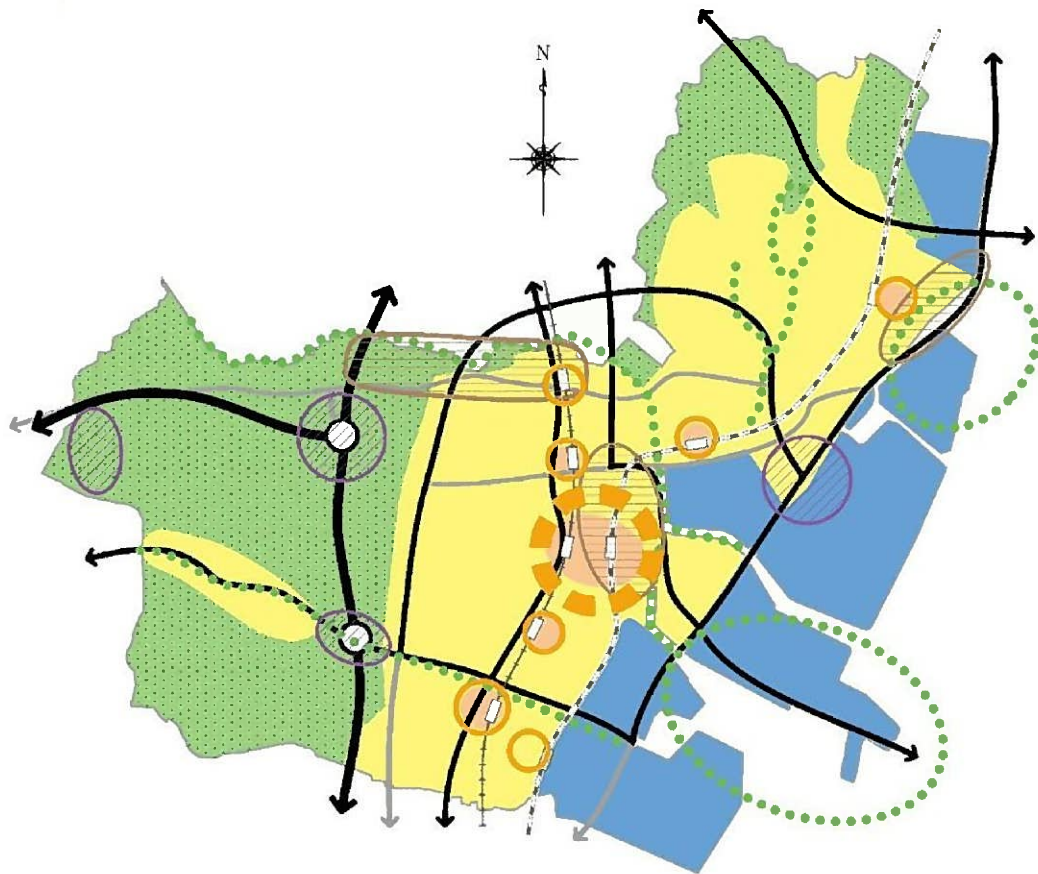
## (2) 上位・関連計画の整理

### ①第6次半田市総合計画

第6次半田市総合計画改訂版（平成23年度～平成32年度）では、「次代へつなぐ市民協働都市・はんだ」を将来都市像に掲げています。まちづくりの目標として「①協働による自立した地域経営のまち」「②地域資源を生かし魅力ある文化を創造・発信し続けるまちづくり」「③安全で快適な環境のもとで安心して暮らせるまちづくり」を掲げています。

施策の方向のうち、「IV 安全で快適に住み続けられるまち」では、「【都市基盤】安全で快適な都市活動を支える住宅・交通基盤を充実します」として、中心市街地における都市機能の集積やまちなか居住の推進によるにぎわいの創出、鉄道駅を生かした地域拠点の形成、駅周辺の交通拠点としての利便性向上が示されています。

図 土地利用構想図（第6次半田市総合計画）



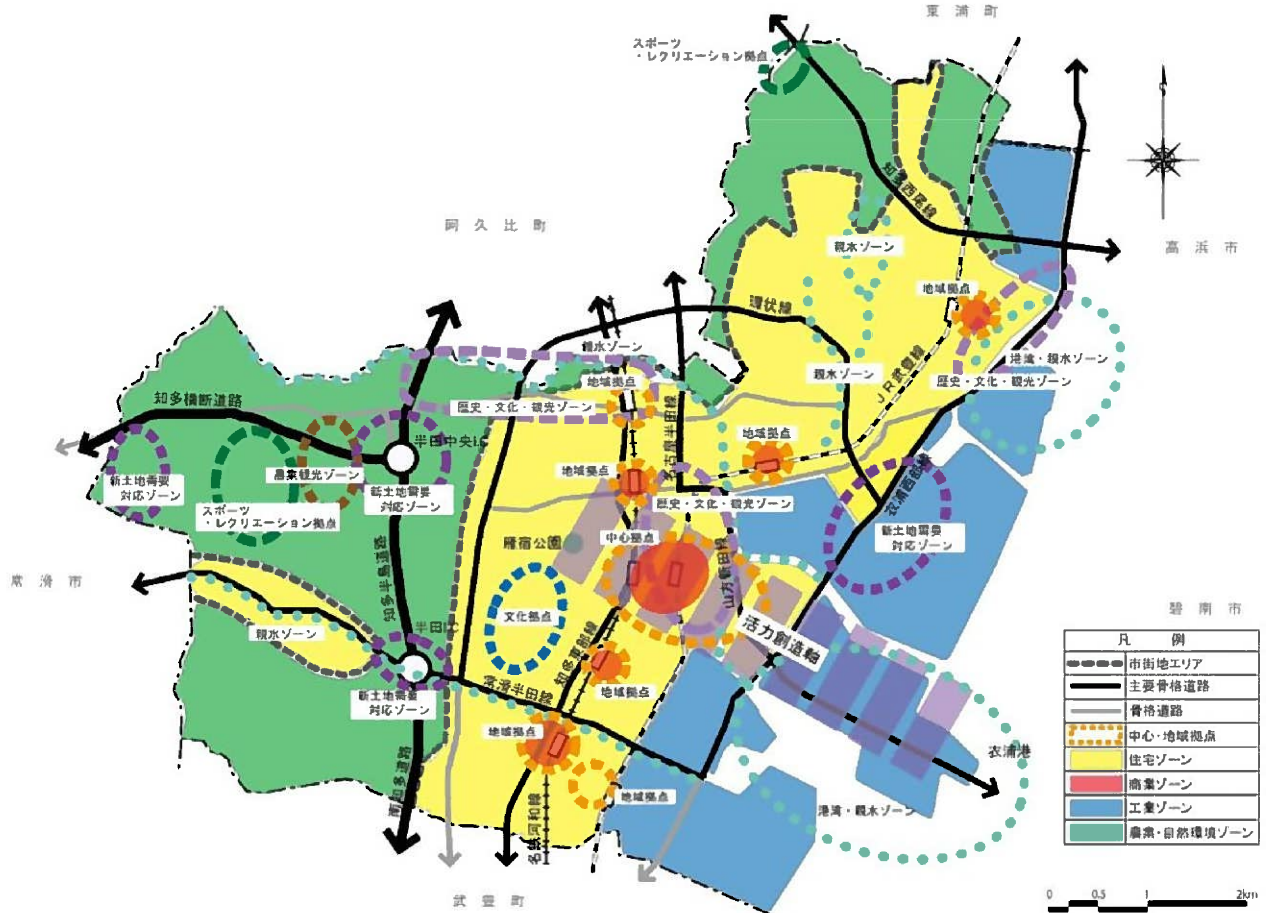
凡 例			
●/○	中心市街地/地域拠点	○	歴史・文化・観光ゾーン
■	居住系地域	▨	新規土地需要ゾーン
■	商業系地域	—	主要骨格道路
■	工業系地域	—	骨格道路
■	農業系地域	---	J R線
■	親水・自然ゾーン	---+	名鉄線

資料：第6次半田市総合計画改訂版

## ②半田市都市計画マスタープラン

半田市都市計画マスタープラン（平成23年度～平成32年度）では、「市民が誇れる賑わいと活力に満ちた、住み続けたいまち半田」を都市づくりのテーマとし、都市づくりの5つの目標（「知多半島の拠点にふさわしいまち 半田」「機能的で暮らしやすいまち 半田」「歴史と文化が薫るまち 半田」「環境と共生するまち 半田」「協働でつくるまち 半田」）を掲げています。

図 将来都市構造図（半田市都市計画マスタープラン）



公共交通関連施策（抜粋整理）		
都市拠点	中心拠点	名鉄知多半田駅・JR半田駅周辺から市役所・半田病院までのエリアは、公的サービス・商業・文化などの都市機能の集積と土地の用途にあわせた高度な利用を図ります。
	地域拠点	鉄道駅周辺は日常生活に必要な機能の集積を図るとともに、中心拠点と連携することで地域の機能を補完します。
機能別ゾーン・拠点	歴史・文化・観光ゾーン	半田運河周辺・半田赤レンガ建物などを含む区域・岩滑地区・亀崎地区は、地域の歴史・文化の保全・活用を図ります。
	文化拠点	半田市立図書館・博物館周辺は、文化施設の充実を図ります。
活力創造軸		半田の歴史や文化が感じられる雁宿公園から中心拠点・半田運河・衣浦港までは、都市機能の集積を図り、にぎわいと活力に満ちた空間を創出します。

資料：半田市都市計画マスタープラン



### ③半田市地域公共交通条例

半田市では、市民をはじめとした地域公共交通に関わる全ての者が一体となり、将来にわたって持続可能な地域公共交通が十分に機能を発揮するために、半田市地域公共交通条例（平成28年度制定）を制定しています。

この条例では、「市長及び議会、市民及び自治区並びに事業者及び公共交通事業者は、地域公共交通の機能が将来にわたって十分に発揮されるよう、地域の特性に応じた地域公共交通のネットワークの構築、良質な運送サービスの確保等を行うことにより、一体となって、本市の地域公共交通に能動的かつ継続的に関わっていかなければならない。」という基本理念を定めています。

そして、市長や議会の責務、市民及び自治区、事業者、公共交通事業者の役割、地域公共交通に関する基本施策等を定めています。

表 半田市地域公共交通条例における関係主体の責務・役割（条例より抜粋）

	関係主体の責務・役割
市長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通に関する基本施策を総合的かつ計画的に策定し、これを実施しなければならない。</li> <li>・基本施策を実施するに当たっては、議会、市民及び自治区、事業者及び公共交通事業者並びに周辺自治体に理解を求め、その協力を得られるよう努めなければならない。</li> <li>・市民に対し、地域公共交通を積極的に利用することについての意識の啓発を行うよう努めなければならない。</li> </ul>
議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域公共交通に関する活動に主体的に参加するとともに、市長と市民及び自治区とを結び、連携して基本施策の立案及び推進に協力しなければならない。</li> </ul>
市民及び自治区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な地域公共交通を実現するための担い手の一員であることを自覚し、地域公共交通に対する理解を深めるよう努めるものとする。</li> <li>・自動車の過度な利用を控え、地域公共交通を積極的に利用するよう努めるものとする。</li> <li>・地域公共交通に関する活動に参画し、基本施策の推進に協力するよう努めるものとする。</li> </ul>
事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員に対し、地域公共交通を積極的に利用することについての意識の啓発を行うよう努めるものとする。</li> <li>・事業活動、従業員の通勤等において、自動車の過度な利用を控え、地域公共交通を利用するよう配慮するものとする。</li> <li>・基本施策の推進に協力するよう努めるものとする。</li> </ul>
公共交通事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営する地域公共交通について利用状況を把握するとともに、市民及び自治区の意見を十分に聴き、その運営に反映させるよう努めるものとする。</li> <li>・社会的な役割を認識した上で、地域公共交通の利便性を向上させるとともに、市長、市民及び自治区並びに事業者に対し、地域公共交通の利用に関する情報の積極的な提供等により、その利用を促進するよう努めるものとする。</li> <li>・基本施策の推進に協力するよう努めるものとする。</li> </ul>

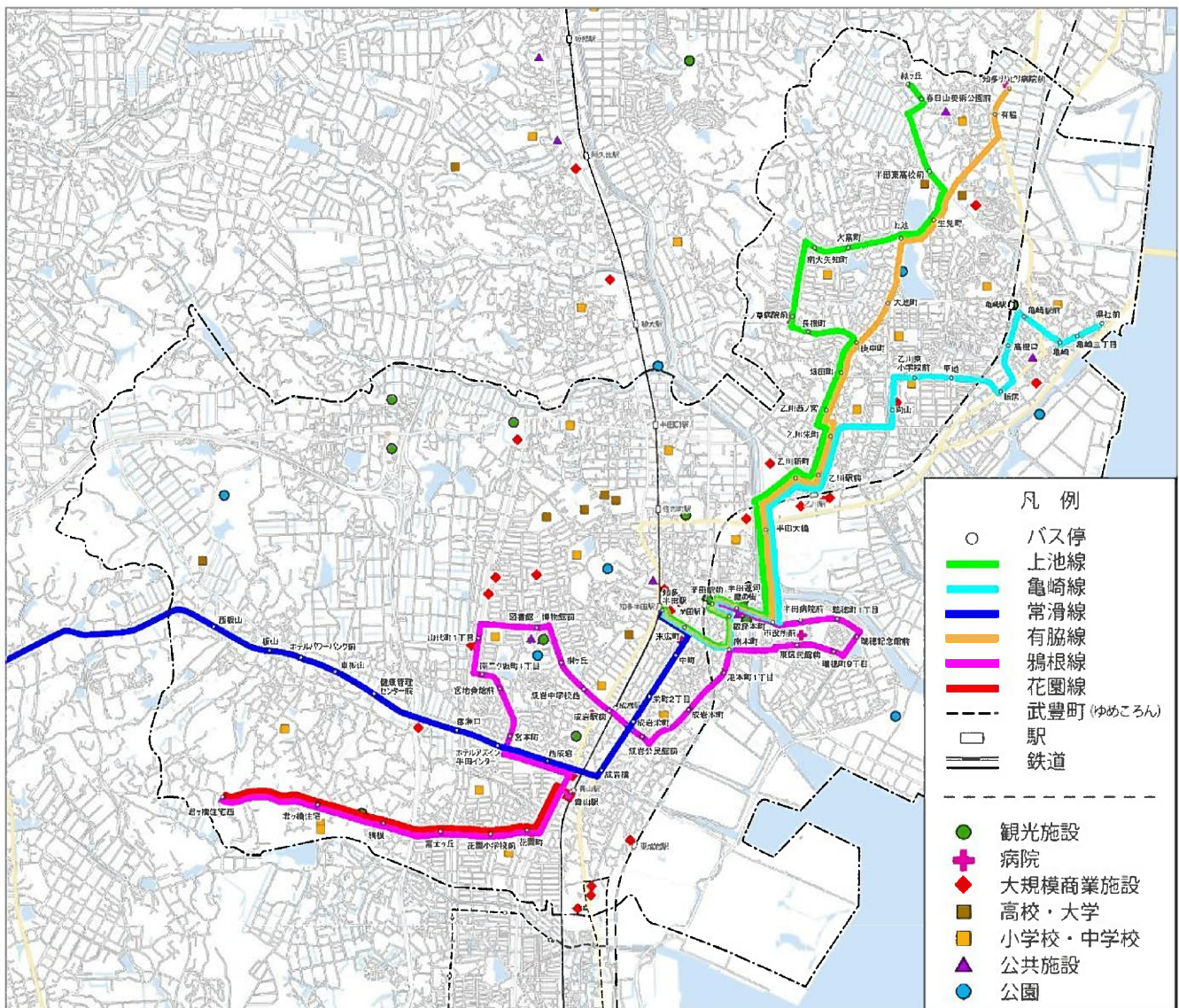
## 2. 公共交通の現状に関する整理

### (1) 交通サービス水準の整理

#### ① 半田市内の公共交通の状況

市内鉄道網は、J R武豊線及び名鉄河和線の2路線が南北方向に走り、市内には9つの鉄道駅が整備されています。また、バス路線網は、これら鉄道駅を発着地として南部地域では常滑市へアクセスする東西方向を結び、北部地域ではJ Rと名鉄間の市街地の交通をサービスする南北方向に運行がされています。

図 半田市内の公共交通路線図



資料：名古屋鉄道、東海旅客鉄道、知多乗合及び武豊町のホームページ

## ②鉄道とバスの運行状況

鉄道の交通サービス水準（平日運行本数）は、JR武豊線82本/日（両方向計）、名鉄河和線（知多半田駅）が239本/日と、名鉄の交通サービス水準が高い状況にあります。

知多バスの交通サービス水準（平日運行本数）は、常滑線が50本/日（4系統両方向計）、上池線（両方向計）が20本/日、亀崎線、有脇線、鴉根線及び花園線が10本/日程度となっています。

表 半田市内の鉄道の運行状況（平成29年7月現在）

	JR武豊線							
	北進（大府・名古屋市方面）				南進（武豊方面）			
	発本数		運行時間帯		発本数		運行時間帯	
	普通	快速・ 区間快速	始発	終着	普通	快速・ 区間快速	始発	終着
亀崎	22	17	5:51	23:14	28	15	6:11	0:03
乙川	22	17	5:47	23:10	28	15	6:15	0:07
半田	22	17	5:44	23:08	28	15	6:18	0:10
東成岩	22	17	5:40	23:02	28	15	6:29	0:14

	名鉄									
	北進（太田川・名古屋方面）					南進（河和・内海方面）				
	発本数			運行時間帯		発本数			運行時間帯	
	普通	急行・ 準急	特急・ 快速急行	始発	終着	普通	急行・ 準急	特急・ 快速急行	始発	終着
半田口駅	59	0	0	5:52	22:52	68	0	0	6:22	0:10
住吉町駅	59	32	4	5:31	23:10	68	42	2	6:02	0:30
知多半田駅	59	32	39	5:29	23:08	40	36	33	6:04	0:32
成岩駅	41	30	1	5:46	23:06	40	36	1	6:06	0:05
青山駅	41	30	36	5:45	23:05	40	36	33	6:08	0:07

※運行時間帯は、各駅の始発時刻及び終着時刻。

資料：東海旅客鉄道及び名古屋鉄道のホームページ

表 半田市内のバス交通の運行状況（平成29年7月現在）

路線名	行先	運行 所要時間	平日				休日			
			運行本数 (本/日)	運行時間帯		運行本数 (本/日)	運行時間帯			
				始発	終着		始発	終着		
知多バス	常滑線 (知多半田駅～中部国際空港)	中部国際空港	48	1	18:22	18:48	1	18:22	18:48	
		知多半田駅	45	1	5:55	6:12	1	5:55	6:12	
	常滑線【常滑市役所経由】 (知多半田駅～常滑市民病院)	常滑市民病院	60	8	11:22	22:15	7	11:22	21:45	
		知多半田駅	60	8	8:00	21:17	8	8:20	21:17	
	常滑線 (知多半田駅～常滑市民病院)	常滑市民病院	45	10	6:52	20:15	8	7:12	20:15	
		知多半田駅	50	11	6:10	21:17	8	6:50	20:47	
	常滑線 (知多半田駅～常滑駅)	常滑駅	35	5	10:22	23:00	4	10:22	22:15	
		知多半田駅	35	6	8:30	19:17	5	8:50	19:17	
	上池線	緑ヶ丘	30	10	6:24	19:49	8	7:09	19:09	
		知多半田駅	30	10	6:30	21:00	8	8:00	19:30	
	亀崎線	県社前	29	6	7:30	17:09	6	7:30	17:09	
		知多半田駅	29	7	8:20	17:59	7	8:20	17:59	
	有脇線	知多リハビリ病院前	25	6	7:59	19:22	5	7:59	17:42	
	知多半田駅	25	6	7:15	18:28	5	7:15	16:58		
鴉根線	君ヶ橋住宅西	20	5	8:20	17:00	2	9:50	13:30		
	半田駅	20	5	9:20	18:05	2	11:50	14:30		
花園線	君ヶ橋住宅西	10	5	6:40	18:50	6	7:50	17:00		
	青山駅前	10	4	7:50	19:35	6	8:15	17:35		
武豊町 コミュニ ティバス ゆめころん	北部赤ルート		40	11	8:37	17:32	11	8:37	17:32	

※運行所要時間は、始発バス停から終着バス停までの片道の所要時間。

※運行本数は片道の1日当たりの運行本数。

※運行時間帯は、半田市内区間での始発時刻及び終着時刻。

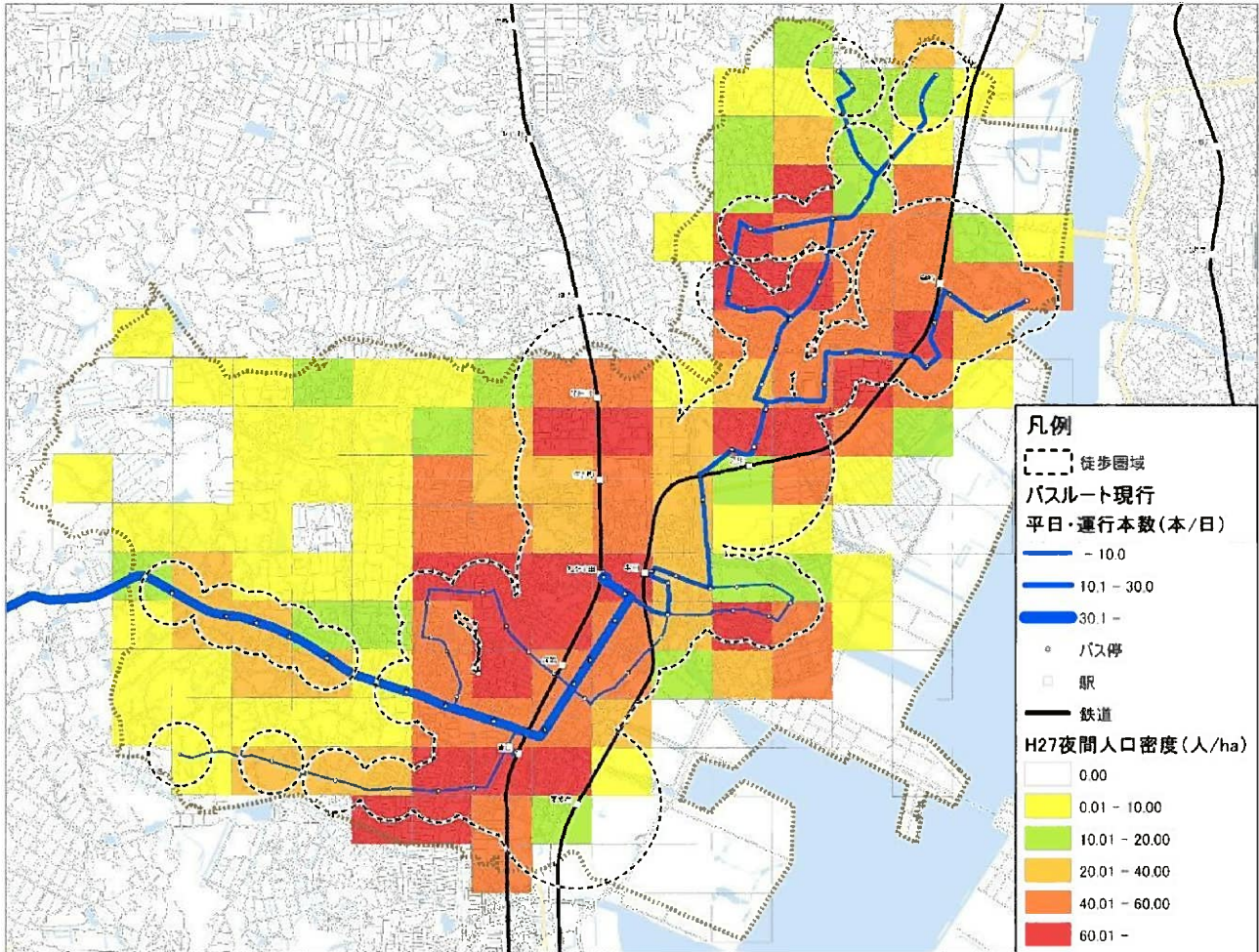
資料：知多乗合ホームページ、武豊町ホームページ



### ③公共交通の利用圏域

公共交通の利用圏域を鉄道駅から800m、バス停から300m<sup>※</sup>とした場合、鉄道駅周辺等の人口密度が高い地域は概ねカバーされますが、西部の岩滑、雁宿、宮池、板山地域や東部のさくら地域、北部の有脇、横川地域などの一部で公共交通の利用が困難な空白地域が存在しています。

図 半田市内の公共交通の利用圏域図



※「都市構造の評価に関するハンドブック（国土交通省 H26.8）」より鉄道徒歩圏及びバス停誘致距離を引用

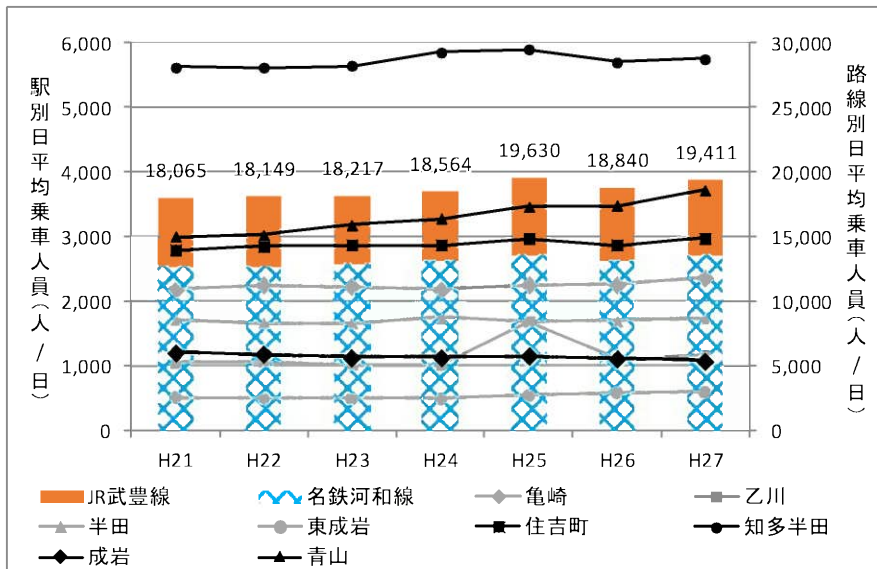
資料：ベース図のメッシュ人口密度図は平成 27 年国勢調査

## (2) 公共交通の利用状況

### ① 鉄道利用者数の推移

J R 武豊線及び名鉄河和線の市内鉄道駅の日平均乗車人員は、平成25年度から平成26年度にかけて減少したものの、平成26年度から平成27年度にかけて微増し、平成27年度現在約1.9万人/日となっています。駅別に見ると、青山駅の利用者数は増加傾向にあります。

図 市内鉄道駅別の日平均乗車人員の推移



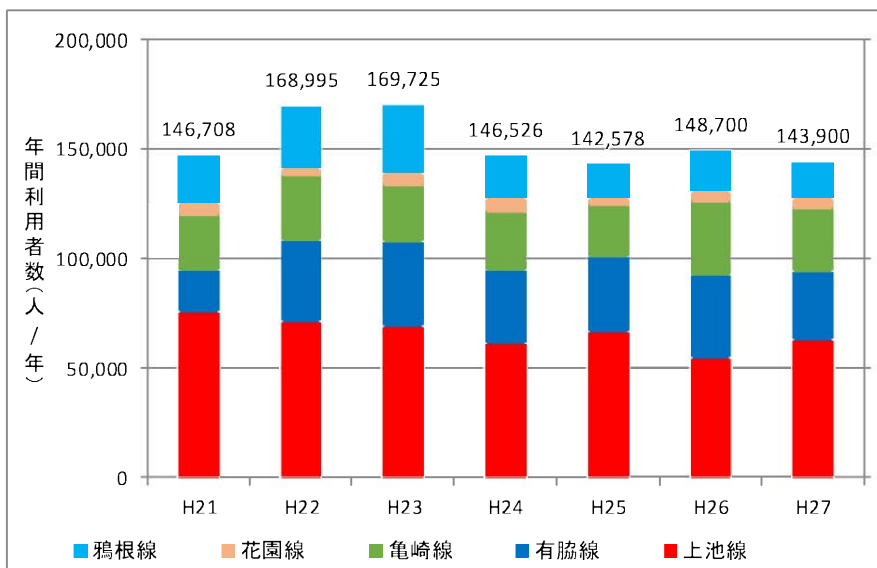
※半田口駅は統計データなし

資料：東海旅客鉄道、名古屋鉄道

### ② バス利用者数の推移

知多バスの年間利用者数は、平成23年度から平成24年度にかけて減少に転じた以降横ばい傾向にあり、平成27年度現在約14万人となっています。路線別に見ると、平成23年度から24年度にかけて鴉根線の利用者数が大きく減少しています。

図 市内バス路線の年間利用者数の推移



資料：知多乗合、半田市

### 3. 各種ニーズ等の把握

#### (1) 調査実施概要

##### ①市民アンケート

項目	内容
調査目的	半田市地域公共交通網形成計画策定のため、市民の公共交通（鉄道・バス・タクシー）の利用状況や意識を把握する。
調査対象	市内在住の12歳以上の3,114人（無作為抽出）
調査方法	郵送による配布、回収
調査時期	平成28年12月05日（月）～12月19日（金） 平成29年01月19日（木）～02月03日（金） ※さくら小学校区追加発送
回収結果	1,223票（回収率：39.3%）

##### ②バス乗降調査

項目	内容
調査目的	本調査は、市内を運行する路線バス（知多バス）の利用実態を把握する。
調査対象	半田市内を運行するバス路線（有脇線、上池線、亀崎線、鴉根線、花園線、常滑線）の利用者
調査方法	調査員によるバス車内での計測
調査時期	平成29年2月24日（金）、2月25日（土）（有脇線、上池線、亀崎線、鴉根線、花園線、常滑線）
実施結果	832人（6路線計）

##### ③グループヒアリング

項目	内容
調査目的	市民の公共交通に対する意識、公共交通の利用状況、政策への意向等を把握する。
調査対象	市内13小学校区（各小学校区10人）
調査方法	インタビュー形式
調査時期	平成29年2月24日（土）、2月25日（日）、3月5日（日）
参加人数	132人（13小学校区計）

##### ④交通事業者ヒアリング

項目	内容
調査目的	半田市地域公共交通網形成計画及び、地域公共交通再編実施計画を策定するにあたり、市内の交通事業者の意向等を把握する。
調査対象	市内の交通事業者（知多乗合株式会社、名鉄知多タクシー株式会社、安全タクシー株式会社）
調査方法	ヒアリング形式
調査時期	平成29年3月22日（水）



⑤主要集客施設調査

項目	内容
調査目的	市内に立地する主要集客施設（駅、公共施設、観光施設）の利用者の来訪手段、バスの利用実態や利用意向を把握する。
調査対象	市内に立地する主要集客施設の10施設（知多半田駅、半田駅、青山駅、乙川駅、亀崎駅、住吉町駅、市役所、図書館、新美南吉記念館、赤レンガ倉庫）の施設利用者
調査方法	ヒアリング形式
調査時期	平成29年7月13日（木）、7月16日（日）
実施結果	1,372票（10施設計）

⑥高校生アンケート

項目	内容
調査目的	市内に立地する高校に通う生徒のバスの利用実態や利用意向を把握する。
調査対象	半田東高校及び半田工業高校の生徒（各校各学年3クラスの合計720人）
調査方法	手渡し配布、回収
調査時期	平成29年7月
回収結果	半田東高校：352票 半田工業高校：349票

⑦地域公共交通市民懇談会

項目	内容
調査目的	市民のバス交通に対する意識、バス交通の利用状況、バス交通再編に向けての意向等を把握する。
調査対象	市内5地区
調査方法	説明会形式での意見交換
調査時期	平成29年7月21日（金）、7月25日（火）、8月6日（日）、8月22日（火）、11月8日（水）
参加人数	130人

⑧くらしの足市民会議

項目	内容
調査目的	バス路線再編に係る基本方針、基幹路線と地区路線バスのルート案に対する意向等を把握する。
調査対象	市内5地区（中学校区）
調査方法	ワークショップ形式
調査時期	平成29年12月4日（月）～12月8日（金）
参加人数	73人

## (2) 各種調査結果

### 1) 市民アンケートの結果概要

#### ① 普段の目的地別の行き先

- ・ 駅：名鉄知多半田駅、名鉄青山駅、JR亀崎駅の利用が多い
- ・ 病院：「市立半田病院」が最も多く（1,000件の回答のうち310件）、その他は各人で異なる
- ・ 買い物：「パワードーム半田」（乙川）が最も多く半田、さくら、乙川、横川など施設周辺の小学校区からの利用が多かった。板山、花園、成岩地区は2番目に多い「フィールCフェスタ」（花園）の利用が多い
- ・ 公的機関：「半田市役所」が最も多く（1,000件の回答のうち550件）、次いで「図書館・博物館」
- ・ 上記の4つの目的では、「買い物」「病院」「駅」「公的機関」の順に利用頻度が高く、買い物については「週に1・2回程度」が約半数を占めた
- ・ 自宅出発・帰宅時間：「駅」のみが異なり、買い物、病院、公的機関はいずれも午前中にピークあり
- ・ 免許保有状況は、保有が約78%と高い割合。一方、免許を持っていない人も約20%存在

#### ② 半田市内の公共交通

- ・ 知多バスの認知度は、自宅の最寄りバス停の場所を知っている人が、ほとんど知らない人を上回ったが、「普段から利用している」と回答した人は約3%と非常に少ない。
- ・ 小学校区で比較すると「板山地区」で利用する人の割合が高く、「常滑線」沿線で利用するとの回答が比較的多い（ただし、「普段から利用する」との回答でも目的地は中部国際空港のケースもあり）
- ・ 知多バスを利用している人の利用頻度は、「年に数回程度」が約62%と高い割合を占め、目的地としては「中部国際空港」が最も多く、次いで「半田市役所」「市立半田病院」の順
- ・ ダイヤ改正や廃止に伴い知多バスを利用しなくなった人は、有脇線沿線、半田、雁宿、岩滑、成岩地区で比較的多い

#### ③ 知多バスの施策

- ・ 「利用することはない」を除き、改善点としては①「本数が増える」、②「目的地への路線ができる」、③「バス停が近くにできる」が多い回答
- ・ 改善方法として、「本数」については30分に1本以上、「目的地」としては名鉄知多半田駅、「自宅からバス停までの距離」としては100m以下がそれぞれ最も多い回答
- ・ 改善した場合、知多バスで行きたい目的地は1位「名鉄知多半田駅」、2位「図書館」。それぞれの頻度は、名鉄知多半田駅が平日はほぼ毎日以上の利用が約7%存在しており、通勤・通学と考えられる。週1〜4日程度の割合は、「図書館」の方が「名鉄知多半田駅」より高い割合
- ・ 改善した場合、知多バスで行きたい方面としては、名鉄知多半田駅周辺、半田市役

所・市立半田病院周辺、乙川駅周辺（パワードーム半田）、図書館・博物館・体育館周辺、イオン半田店周辺と分散

④バスと鉄道の乗継

- ・乗り継ぎの条件としては、「待ち時間が短い」が最も多い

⑤タクシーの利用状況

- ・回答者の半数以上が、タクシーは「利用しない」と回答。次いで年に1～5回程度（約30%）は「自宅」や「名鉄知多半田駅」から利用

⑥最寄り駅と自宅間の移動手段に対する支払意思額

- ・「0円」以外では、「100円～300円」が比較的多い

⑦今後の半田市における交通政策のあり方

- ・現在のバス路線維持に対する負担額（1人あたり年間約286円）は、「妥当である」が半数以上
- ・今後の公共交通への対応としては、「経費を増額してでも利便性の向上を目指すべし」が最も多く約32%を占めた

⑧自由意見

- ・回答の約30%に自由意見あり
- ・最も多い意見は、「周辺市町で運行しているコミュニティバス（小型車両、安価な運賃、きめ細かな運行）の運行（復活）」であり、現在の知多バスが目的地（買い物や最寄り駅）に行けないこと、一部の利用者しか利用できない（バス停から遠い）ことなどが理由として挙げられていた



## 2) バス乗降調査の結果概要

### ① 1日あたりの乗車人数

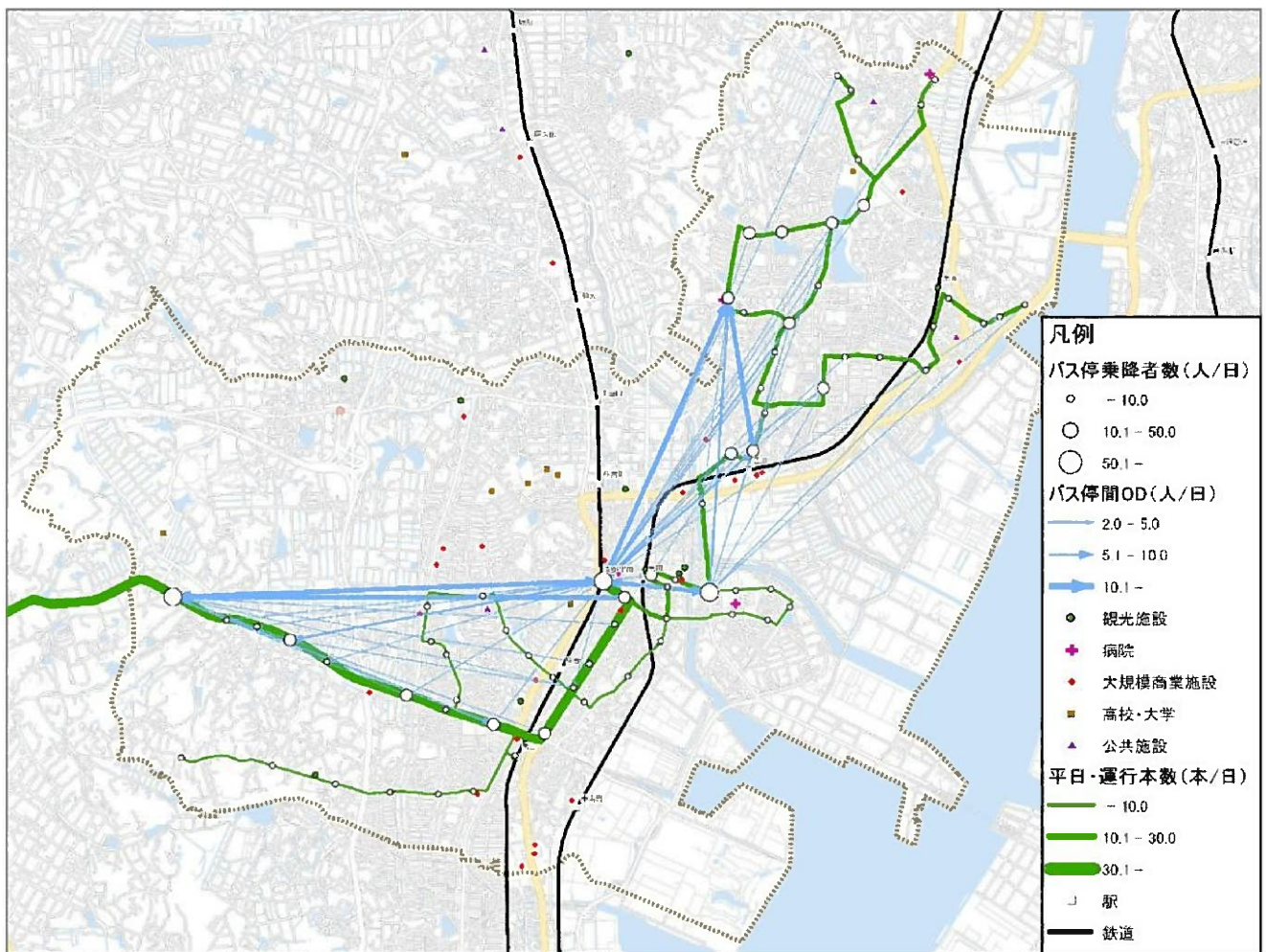
- ・ 1日あたりの乗車人数は、市内では「常滑線」「上池線」が多い
- ・ 「有脇線」「上池線」は平日と休日で乗車人数に大差はなかったが、「亀崎線」「常滑線（市内のみ）」では、休日は平日の約半分に低減していた

### ② 路線別利用状況

	バス乗降人数	便別乗車人数	OD
有脇線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最も乗降の多いバス停は「知多半田駅」で、次いで「市役所前」が多い。</li> <li>・ 市役所以北では、庚申町～上池間の乗降人数が比較的多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平日上りは、1、2便が比較的多く、1便は主に「知多半田駅」、「JR半田駅」の降車が多い。</li> <li>・ 平日下りは大きなピークはなく、午後の乗車が比較的多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上りは「知多半田駅」を終点とするODが多く、まとまったODは少ない。</li> <li>・ 下りは、半数以上が「知多半田駅」を起点とするODである。</li> <li>・ 全体的にまとまったODはなく、知多半田駅⇔市役所前間が最も多い。</li> </ul>
上池線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最も乗降が多いバス停は「知多半田駅」で、次いで「一ノ草病院前」が多い。</li> <li>・ 乙川駅周辺や一ノ草病院周辺の乗降人数が比較的多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平日上りのピークは、3便にあり、降車は「知多半田駅」が最も多く、利用は午前中に集中している。</li> <li>・ 平日下りは5便前後で比較的多くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上りは「知多半田駅」を終点とするODが最も多く、「知多半田駅」と「一ノ草病院前」間が最も多い。また、「市役所前」を起終点とするODも比較的多い。</li> <li>・ 下りは「知多半田駅」を起点とするODが多く、そのうち「一ノ草病院前」とのODが最も多く、「市役所前」を起終点とするODも比較的多い。また、大高町以北を起終点とするODは少ない。</li> </ul>
亀崎線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乗降が最も多いバス停は「知多半田駅」で、次いで「市役所前」が多い。</li> <li>・ それ以外のバス停では「向山」は比較的多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平日上りは2便にピークがあり、降車は主に「知多半田駅」「市役所前」であった。</li> <li>・ 平日下りは6便にピークがあり、乗車は「知多半田駅」と「JR半田駅」であった。</li> <li>・ 上りの平日と休日では、ピーク時間が異なっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「知多半田駅」を起終点とするODが最も多く、次いで「市役所前」「向山」の順となっていた。</li> <li>・ 向山以北を起終点とするODは以南に比べて少ない。</li> </ul>
常滑線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 路線全体の乗降人数のうち約半分は、市内から常滑方面へのODである。</li> <li>・ 市内では「知多半田駅」と「西板山」における乗降人数が特に多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平日上りのピークは2、15便にあり、2便は常滑方面→西板山が多い。</li> <li>・ 平日下りは、ピークが5便にあり、常滑方面の利用が多く、市内では知多半田駅→西板山が比較的多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内では西板山⇔知多半田駅間の最も多く、次いで東板山⇔知多半田が多い。</li> <li>・ 下りの末広町から西板山のODは、JR半田駅利用者と考えられる。</li> <li>・ 市内から常滑市への移動も多く、特に知多半田駅→常滑、西板山→常滑が多い。</li> </ul>

	バス乗降人数	便別乗車人数	OD
花園線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鴉根線、花園線とも乗降が最も多いバス停は「青山駅」で、次いで「君ヶ橋住宅」「富士ヶ丘」が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平日の便別乗車人数は、鴉根線の上り4便で最も多かった。</li> <li>・ 休日は、平日に比べ1便あたりの乗車人数が少ない。花園線は0人の便が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「君ヶ橋住宅」と「青山駅」を結ぶODが最も多く、「君ヶ橋住宅」「青山駅」「半田病院前」「図書館・博物館前」を起終点とするODが比較的多い。</li> <li>・ 上りの南北の移動は、花園学区から「半田市役所」、「半田病院」、「瑞穂町9丁目」でわずかに存在する。</li> <li>・ 上りに比べ、全体的に利用が少なく、特に「半田病院前」から帰宅するODが少ない。</li> </ul>
鴉根線	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青山駅以北では、駅や、「図書館・博物館」「半田病院」が多い。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全て「青山駅」を終点とするODであり、上りは「富士ヶ丘」から「青山駅」が最も多く、下りは、「青山駅」から「君ヶ橋住宅」が最も多い。</li> </ul>

図 全路線のOD図





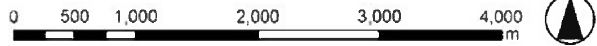
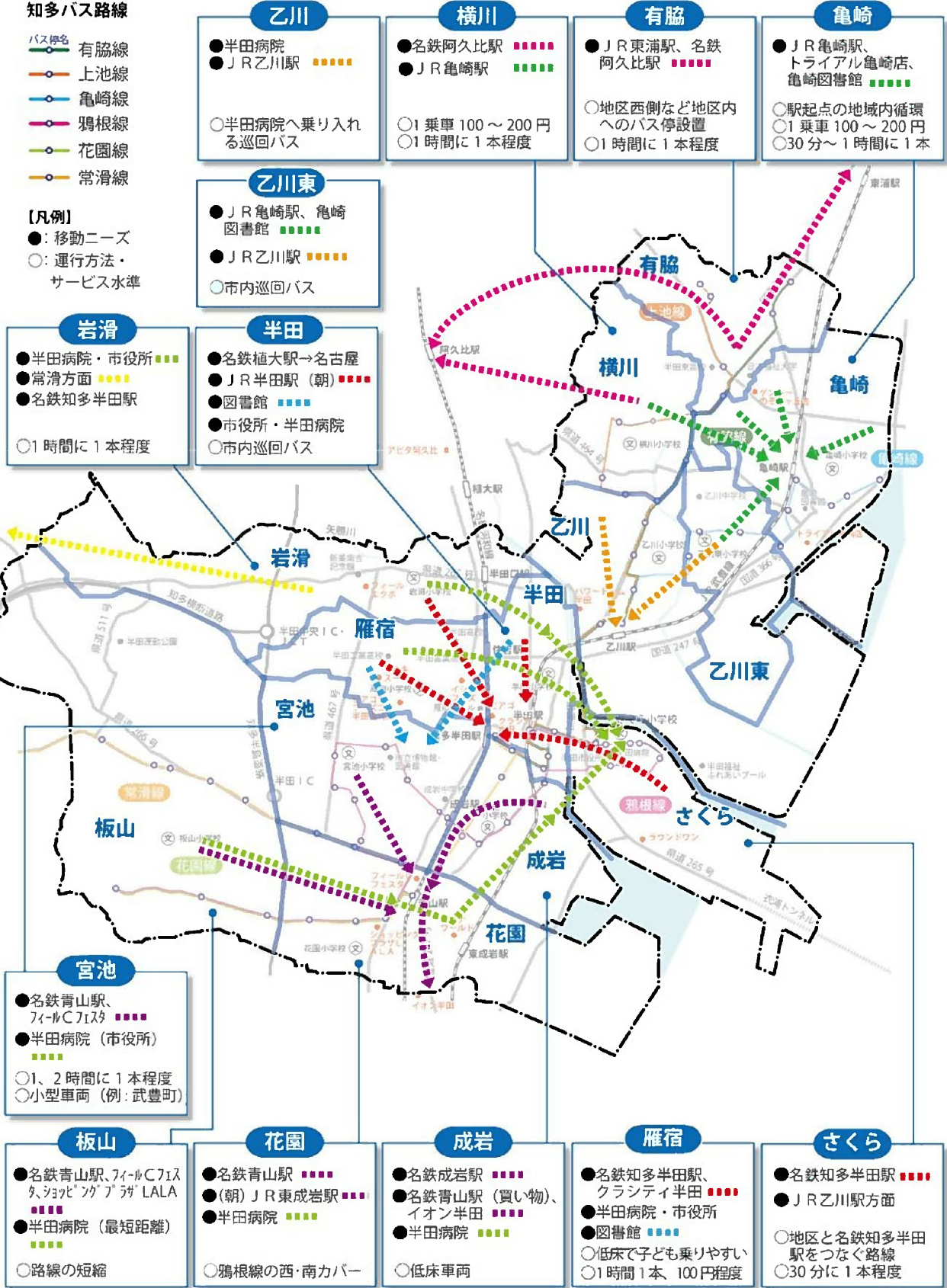
### 3) グループインタビューの結果概要

#### 知多バス路線

- バス線名
- 有脇線
- 上池線
- 亀崎線
- 鴉根線
- 花園線
- 常滑線

#### 【凡例】

- : 移動ニーズ
- : 運行方法・サービス水準





#### 4) 交通事業者ヒアリング

テーマ	結果概要
1 現在の事業上の問題点・懸念事項について	・ 運転手不足などの各社が抱える課題等を確認できた。
2 市民グループヒアリング結果に対する考えについて	・ グループヒアリングで出された市民からの意見に対し、各交通事業者の考え方を確認できた。 ・ グループヒアリングを踏まえた今後の公共交通ネットワークの基本的な考え方については、各事業者から合意を得た。
3 その他	・ 今後、具体的な計画を策定する上で必要に応じ、各事業者への意向確認等を行いながら検討を進めることを確認した。

## 5) 主要集客施設調査の結果概要

- 鉄道駅は徒歩又は自転車利用、市役所、図書館及び観光施設は自動車利用が多い
- 月に数回以上の利用頻度では、鉄道駅、図書館は約 80%以上、観光施設は 10%程度
- バス利用が可能となる条件は、多くの施設で運行本数を求める声が多く、乙川駅、住吉駅は運賃が安い、新美南吉記念館では複数施設への立ち寄りも挙げられる
- これら条件が改善された場合の利用意向は、12~52%と施設でバラツキが見られる

施設名	利用交通手段 (往路)	月に数回以上の 利用割合 (週に数回以上 の利用割合)	目的 (帰宅は往路の 目的、順位には その他は除く)	バス利用が可能となる 条件 (未利用者のみ複数回答)	今後のバス利 用意向 (利用すると多分 利用するの計)
知多半田駅 (n=154)	①徒歩53% ②自動車16% ③自転車14% *知多バス7%	87% (71%)	①通勤44% ②通学19% ③業務10%	①運行本数が多い37% ②バス停の近接性29% ③乗り継ぎ利便性13%	52%
半田駅 (n=93)	①徒歩73% ②自転車11% ③自動車10% *知多バス1%	87% (71%)	①通勤48% ②通学16% ③通院 8%	①運行本数が多い44% ②バス停の近接性38% ③運賃が安い 17%	32%
青山駅 (n=70)	①徒歩54% ②自動車39% ③自転車 3% ③タクシー 3% *知多バス1%	91% (74%)	①通勤29% ①通学29% ③業務 9%	①バス停の近接性33% ②運行本数が多い16% ③運賃が安い 7%	32%
乙川駅 (n=73)	①自転車45% ②徒歩43% ③自動車10% *知多バス0%	90% (81%)	①通勤45% ②通学19% ③買物11%	①運賃が安い 14% ②運行本数が多い11% ③バス停の近接性 7%	23%
亀崎駅 (n=102)	①徒歩58% ②自転車24% ③自動車11% *知多バス0%	93% (85%)	①通学43% ②通勤31% ③通院 4% ③買物 4%	①運行本数が多い22% ②バス停の近接性14% ③運賃が安い 13%	20%
住吉町駅 (n=147)	①徒歩63% ②自転車19% ③自動車16%	95% (82%)	①通勤40% ②通学30% ③業務13%	①運賃が安い 22% ②運行本数が多い15% ③バス情報の入手12%	43%
半田市役所 (n=143)	①自動車93% ②徒歩 4% ③自転車 1% *知多バス0%	36% (7%)	—	①運行本数が多い32% ②バス停の近接性20% ③運賃が安い 13%	48%
半田市立図 書館 (n=350)	①自動車79% ②徒歩11% ③自転車 8% *知多バス0%	82% (28%)	—	①運行本数が多い21% ②バス停の近接性14% ③運賃が安い 13%	34%
新美南吉記 念館 (n=105)	①自動車94% ②自転車 2% ②徒歩 2%	12% (7%)	—	①運行本数が多い24% ②運賃が安い 16% ③複数施設の立ち寄り 14%	31%
半田赤レン ガ建物 (n=135)	①自動車84% ②徒歩13% ③自転車 4%	8% (0%)	—	①運行本数が多い24% ②バス停の近接性17% ③運賃が安い 13%	12%

\*施設名の (n=○) は回答者数を表す

## 6) 高校生アンケートの結果概要

■ 鉄道を除く普段の通学交通手段は、自転車＋徒歩利用が東高校 95%、工業高校 94%


■ バス利用が可能となる条件は、東高校・工業高校とも第1位は運賃が安ければ、第2位は運行本数の順となっている


■ これら条件が改善された場合の利用意向は、東高校 80%、工業高校 93%を占める


設問	半田東高校 (回答者数352名)	半田工業高校 (回答者数349名)
居住地	①半田市 56% ②東浦町 17% ③武豊町 8%	①半田市 42% ②愛知県内(半田市・常滑市・阿久比町・東浦町・武豊町を除く) 34% ③武豊町 11%
鉄道の利用状況 (利用鉄道駅)	①普段から通学で利用 24% (亀崎駅 92%) ②悪天候時は通学で利用 3% (亀崎駅 83%)	①普段から通学で利用 46% (住吉町駅 96%) ②悪天候時は通学で利用 2% (住吉町駅 86%)
通学手段 (鉄道を除く)	①自転車 88% ②徒歩 7% ③自家用車(送迎) 2% *知多バス 1% (3名)	①自転車 51% ②徒歩 43% ③自家用車(送迎) 0.3%
バスが運行する場合の希望	—	利用希望駅: ①住吉町駅 66% ②知多半田駅 17% ③半田駅 6% バス停までの時間: 5分以内 24% (累計) 3分以内 56%
バス利用の必要性 *半田東高校は知多バスが運行 *半田工業高校は既存バスサービスなし	バスが便利になれば通学で利用する 25% ⇒自転車利用者クロスでは 23% ⇒徒歩利用者クロスでは 28% ⇒自家用車(送迎)クロスでは 57% 通学でバスを利用する必要性がない 69%	バスが運行されれば通学で利用する 29% ⇒自転車利用者クロスでは 15% ⇒徒歩利用者クロスでは 44% 通学でバスを利用する必要性がない 69%
バスの利用条件 (複数回答)	①運賃が安ければ 54% ⇒自転車利用者クロスでは 25% ⇒徒歩利用者クロスでは 33% ⇒自家用車(送迎)クロスでは 14% ②運行本数が多ければ 47% ⇒自転車利用者クロスでは 22% ⇒徒歩利用者クロスでは 22% ⇒自家用車(送迎)クロスでは 14% ③バスの情報が分かれば 37% ⇒自転車利用者クロスでは 16% ⇒徒歩利用者クロスでは 17% ⇒自家用車(送迎)クロスでは 21%	①運賃が安ければ 69% ⇒自転車利用者クロスでは 21% ⇒徒歩利用者クロスでは 21% ②運行本数が多ければ 65% ⇒自転車利用者クロスでは 17% ⇒徒歩利用者クロスでは 20% ③車内が空いていれば 44% ⇒自転車利用者クロスでは 13% ⇒徒歩利用者クロスでは 13%
バスの利用意向 (積極的に利用＋出来るだけ利用)	今後は利用しようと思う 80% *積極的に利用 (全体で 33%) ⇒自転車利用者クロスでは 26% ⇒徒歩利用者クロスでは 57% ⇒自家用車(送迎)クロスでは 100% *出来るだけ利用 (全体で 47%) ⇒自転車利用者クロスでは 51% ⇒徒歩利用者クロスでは 29% ⇒自家用車(送迎)クロスでは —	利用しようと思う 93% *積極的に利用 (全体で 50%) ⇒自転車利用者クロスでは 44% ⇒徒歩利用者クロスでは 52% *出来るだけ利用 (全体で 43%) ⇒自転車利用者クロスでは 44% ⇒徒歩利用者クロスでは 42%





## 7) 地域公共交通市民懇談会の結果概要

地区名	開催日	出席者数	主な意見
成岩	7/21 (金)	10名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区路線バス市民協議会はどのような年代の方で運営したらよいか。</li> <li>・ バス利用について、誰がどのように乗っているのか分からないし、誰が乗りたいと思っているのか分からない。また、誰がどのように困っているのかも分からない。</li> <li>・ 宮池地区で検討中の公園整備と一体的に市民病院を誘致し、病院を中心としたバス運行を行えば利用も見込まれると思う。</li> </ul>
			

地区名	開催日	出席者数	主な意見
乙川	7/25 (火)	25名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスの利便性が向上すれば、自転車や送迎の人たちはバス利用へ転換すると思う。</li> <li>・ 鉄道事業者と協力し、駅前のトイレや照明の整備などができれば、お年寄りや女性が安心して利用できるようになる。</li> <li>・ バスが運行するための道路条件等の規制はあるか。半田市でフリー乗降区間を設けることは可能か。</li> <li>・ 亀崎駅へ行くバスを走らせれば学生の利用も増えると思う。</li> <li>・ 乙川駅は自転車利用が多く、バス利用への転換も考えられるため、基幹路線を運行すべきかと思う。</li> </ul>
			

地区名	開催日	出席者数	主な意見
半田	8/6 (日)	41名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ バスやタクシーに福祉タクシーも加え、少しでも運賃を抑えた形で市民に使ってもらえる仕組みづくりを考えてほしい。</li> <li>・ 市民の要望は多く、地区路線バス市民協議会で住民が主体的に対応を図ることは非常に難しいかと思う。</li> <li>・ 地区路線バス市民協議会の立ち上げや運営にあたっては市の支援をお願いしたい。</li> <li>・ 新美南吉記念館と空の科学館は子ども達に見せたい文化の拠点です。これら市内の観光施設を巡るバスを運行してほしい。</li> </ul>
			

地区名	開催日	出席者数	主な意見
青山	8/6 (日)	13名	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・半田市のどこのどういう人たちがどういうバスを利用しているのかアンケートを取り、その要望に応えるようなバスの運行計画を作ってほしい。</li> <li>・板山から市民病院まで行く場合、知多半田で乗り換えが必要ですし、料金も高い。</li> <li>・半田市の図書館に行く足がないため、イオンへ行き、武豊町のバスで武豊町の図書館に通っている</li> <li>・どういう人がどういう所にバスで行きたいかを把握し、生活に密着したところを重点的に回り、本数も増やすことをしないと、前回のように利用者が少なく、終わってしまう気がする。</li> </ul>

地区名	開催日	出席者数	主な意見
亀崎	11/8 (水)	41名	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・西生見町交差点から、亀崎中学校の北を通るルートや平地町交差点を通り、亀崎中学校の南を通るルートにしてほしい。</li> <li>・県道 46 号と国道 247 号を通るルートやロイヤルコートの前を通るルートにしてほしい。</li> <li>・新居区民館の前を通り、トライアルへ抜けるルートにしてほしい。</li> <li>・右回りと左回りでの運行、亀崎地区と有脇地区の各地区 1 台ずつでの運行、半田市民病院や市役所への直行などの意見が挙げられた。</li> </ul>

## 4. 半田市における地域公共交通の課題

上位・関連計画で示される半田市が目指すまちづくりの方向性を踏まえ、半田市の人口動向、主要集客施設の立地状況及び交通流動特性などの地域概況や、半田市における公共交通サービス及び利用の現状、各種ニーズ調査結果より得られた市民・利用者の公共交通に対する意向を踏まえ、半田市における地域公共交通の主な課題を以下に整理します。

### 半田市の地域公共交通に関する主な課題

- ①人口集積が高い地域への移動ニーズへの対応
- ②現行の公共交通利用者の移動ニーズへの対応
- ③地区や生活圏で異なる地域住民の移動ニーズへの対応
- ④半田市が目指すまちづくり及び観光振興への対応

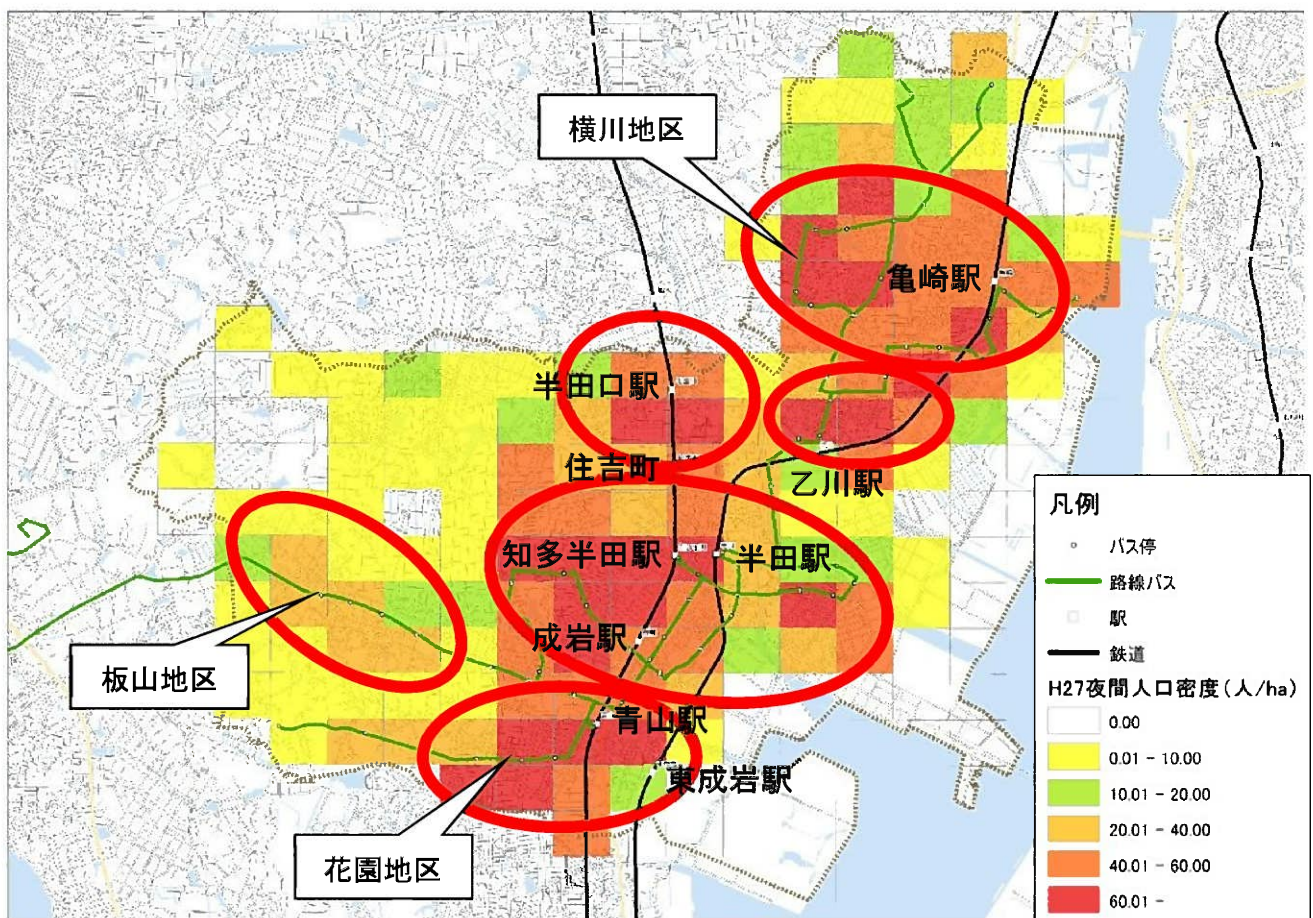


## 課題① 人口集積が高い地域の移動ニーズへの対応

半田市では、市内の9つの鉄道駅を中心に住宅地を中心とした市街地が形成されてきたことから、鉄道駅周辺の人口集積は高い状況にあります。また、横川地区、花園地区及び板山地区では、バス路線沿線の人口集積も高い状況にあります。

このように、バス利用が発生する背景となる人口集積地は、鉄道駅周辺やバス路線沿線といった公共交通の利便性が高い地域で見られるものの、市内に広く分布することから、鉄道駅周辺及びバス路線沿線市街地相互の連携強化や、これら市街地内での移動の利便性の確保など、人口集積が高い地域の移動ニーズへの対応が課題です。

図 人口密度と公共交通ネットワークの関係図



## 課題②

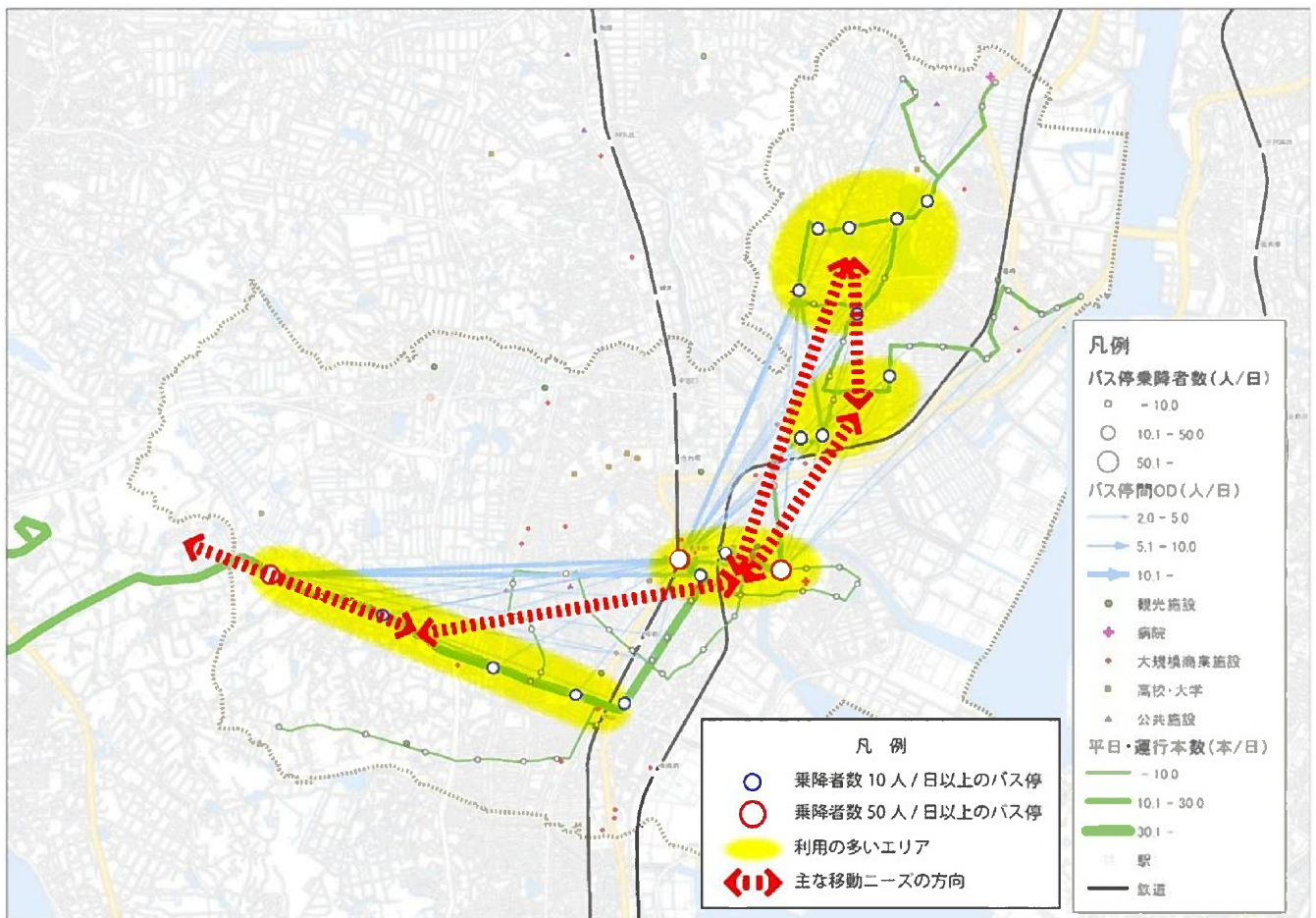
## 現行の公共交通利用者の移動ニーズへの対応

半田市内には知多バスが運行する路線バスが6路線存在しており、平成28年度に実施した路線バスの乗降調査では、知多半田駅、半田駅、市役所前、乙川駅及び青山駅といった主要集客施設相互または、主要集客施設と住宅地を起終点（OD）とする移動需要が多く存在しています。

また、平成27年国勢調査における通勤通学流動では、名古屋市をはじめ常滑市、武豊町及び阿久比町等の周辺市町との結びつきが強く見られ、とりわけ名古屋市方向への鉄道による移動ニーズが多く存在し、平成28年度に実施した市民アンケート結果からは、普段の目的地として知多半田駅、青山駅及び亀崎駅の利用が多く見られます。

これらより、鉄道駅へのバスアクセスの確保など、現行の公共交通利用者の移動ニーズへの対応が課題です。

図 路線バス主要OD図





### 課題③

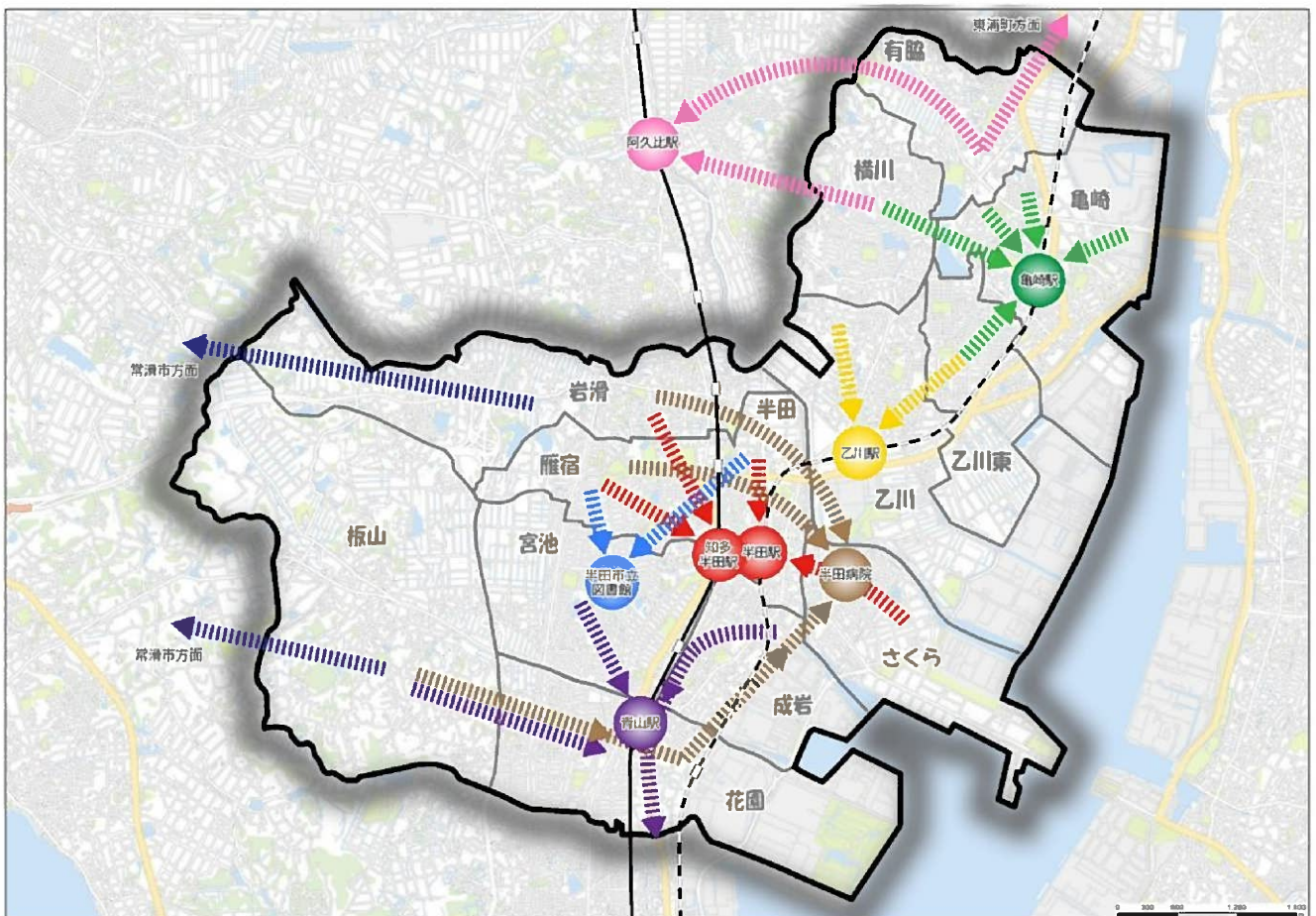
### 地区や生活圏で異なる地域住民の移動ニーズへの対応

平成 28 年度に実施したグループヒアリングでは、市内各地域から半田病院への移動ニーズが確認されました。また、北部の亀崎・横川学区は亀崎駅、乙川学区は乙川駅、中部のさくら・半田・岩滑・雁宿学区は知多半田駅・半田駅、南部の成岩・宮池・花園・板山学区は青山駅への移動ニーズとともに、北部地域では阿久比駅や東浦駅、岩滑・板山地域では常滑駅への移動ニーズなど、市内外の鉄道駅への移動ニーズが確認されました。

また、平成 28 年度に実施した市民アンケートでは、買物先として各地域内に立地する商業施設が多く利用されていることや、知多バスで行きたい方面として、知多半田駅周辺、半田市役所・半田病院周辺、乙川駅周辺（パワードーム半田）、図書館・博物館・体育館周辺、イオン半田店周辺が多く、市内各地域への移動需要が存在しています。

これらより、半田病院のように各地区で共通した移動ニーズに加え、各地区の最寄り鉄道駅や商業施設などの日常的な移動ニーズが存在することから、地区や生活圏で異なる地域住民の移動ニーズへの対応が課題です。

図 グループヒアリング結果から見た学区別の移動ニーズ





## 課題④

## 半田市が目指すまちづくり及び観光振興への対応

半田市都市計画マスタープランでは、中心拠点（知多半田駅・半田駅周辺から市役所・半田病院までのエリア）において公的サービス・商業・文化などの都市機能の集積を図りつつ、地域拠点（知多半田駅と半田駅を除く鉄道駅周辺のエリア）において日常生活に必要な機能の集積を図るものとし、中心拠点と地域拠点を連携することで集約連携型のまちづくりを目指しています。

また、半田市は、ユネスコ無形文化遺産に登録された亀崎潮干祭をはじめ、山車まつり、半田運河・蔵の街、新美南吉の生家・記念館、赤レンガ建物、ミツカンミュージアムなど、魅力的な歴史・文化資源を有し、これら内外に誇れる半田の文化を創造し、多くの人々が集まり交流するまちづくりを目指しています。

平成 29 年度に実施した主要集客施設調査では、バス利用が可能となる条件として、バスサービス水準の向上とともに、複数の施設に立ち寄れることとする回答も多く挙げられています。

これらより、多様な都市機能が集積する都市拠点と地域拠点を連絡する集約連携型まちづくりとともに、魅力ある地域資源相互を連絡し交流を創出する観光振興など、半田市が目指すまちづくり及び観光振興の実現に向け、これを支援する公共交通体系を構築することが課題です。

図 将来都市構造図（都市計画マスタープラン）

